

えぽっく

八重洲古書館
RETRO REVALUE RECYCLE

創刊3号
2000年5月24日発行
中央区八重洲2-1
八重洲地下街
TEL033272-2888

チャレンジ!!

私たち小売業は、今、大きく変革しています。古書・古本の世界も例外ではありません。本を探すのも、買うのも、インターネットの世界があります。新刊書を扱うところでは、朝注文すると、夕方には本が届くようになりました。本当に便利になりました。

私たちも、インターネットを利用して古書の販売をしております。約7000点を掲載しておりますが、特別な宣伝をしているわけではないのですが、ご注文を戴いております。図書館・美術館・資料館等の学芸員の皆様も活用されているようで、今後益々の利用が進みそうです。現在、色々な古書データベースに100万点ぐらいの登録があるようですから、確かに利用価値があります。

しかし、全てがネット取引になることはないであろうと思います。書物との出逢いには、色々なケースがあります。書店の棚を見つめることにより、ときめく出逢いもあります。知らない本に出逢うこともあります。懐かしい本との出逢いで、心とむくもありません。

仕事の役に立つこともあれば、仕事の疲れを癒してくれることもあります。未知の世界に引きずり込まれることもあります。豊かな発想の源になることもあります。人それぞれ、皆違うのですが、それぞれに違った魅力を持った不思議な関係がある『書物』は永遠に別れることが出来ないのでしょうか。

永遠にお付き合いする 書物文化 文字文化 印刷文化 を特別なものとして遠ざかることなく、身近に楽しく触れることの出来る、全く新しい感覚の 古本屋 を開拓するために、6月より金井書店八重洲店隣で、実験店舗を営業いたします。従来、私たちがお案内できなかった方々にもお立ち寄りいただける“新鮮な”店造りにチャレンジします。

八重洲地下街をご利用の皆様とは、特にご意見をお聞きし、教わりながら勉強し研究して、試して、色々なものが揃う複合的な“お楽しみ戴ける古本屋”を創造したいと思います。

皆様のご遠慮ないご意見ご感想をお寄せ下さい。お待ちしております。今月も宜しく願い申し上げます。

八重洲古書館店長 渡辺明子
金井書店八重洲店店長 川上亜衣子
スタッフ一同

スタッフのメッセージ

私が八重洲古書館で働きはじめてもうすぐ5年になります。

あっという間だったといえそうですが、その間の出来事 - 八重洲店の店舗拡大・両店店長の交替・インタ-ネットサ-ビスの開始等々 - を考えてみるとやはり長かったなぁというのが実感です。新人の頃は右も左もわからず注意されてばかり。「今日も一日無事に終わった」とホッとして家路についていたのに、そのうち後輩が1人増え、2人増え、気がつくと教えられる立場から教える立場になっていました。

とはいえ今だに失敗する事も多く、そのたびに反省したり落ちこんだりしています。本の知識にしても毎日多くの本を目にしているのに、お客様から「さんの書いた本ありますか」と聞かれてもその人がどんな分野の人なのか、何をした人なのか知らないことがしばしばあるのです。そういう時はお客様に教えていただくのですが……これもなんだか情けない気がします。もちろんすべてわかるようにするのは無理だと思うのでせめて一度聞かれたことは忘れないように、次からは迷わず御案内できるように心掛けています。お客様の探している本が見つかった時は本当にうれしいんですよ。「これずっと探してたんだよね」なんて言われるともう心の中でガッツポーズ、やったぜ!!! ってかんじです。まぁそんなこんなでいろいろありますが、今日も明るく元気ががんばっています。

八重洲古書館 竹内良枝

RETRO = 懐古趣味

REVALUE = 再評価する

RECYCLE = 再利用、環流する

これからも、本をお売り戴くこと、お買い上げ戴くことの両面にわたり、相変わりがませずご利用いただきたくお願い申し上げます。

八重洲古書館
RETRO REVALUE RECYCLE

ご意見ご感想ご提案をお待ち申し上げます。
下記宛にお寄せ下さい。

金井書店営業本部

〒161-0032 東京都新宿区中落合4-21-16

FAX 03-3953-7851

E-mail: office@kosho.co.jp

読み終えた本、昔の本をお売り下さい

最新情報はインターネットホームページをご覧ください。
<http://www.kosho.co.jp/>

沖縄風俗絵図



れ、どちらの模様にしても、風土や嗜好により、琉球風に純化されています。

この琉球文化の華やかさは、当然その他のものにも見ることが出来ます。14世紀末に中国から入ってきた

王朝期の衣裳



とされるのが、16～17世紀、朱漆に沈金・螺鈿のものでした。琉球の特徴である鮮やかな朱色や緑色の上に、沈金や螺鈿で文様を描いています。この時期は、黄金期ともいわれ、すでに技術の輸入元である中国を凌駕していたとも言われています。その後、17～18世紀にかけては、島津の侵攻による日本の影響からか、黒漆が増え、螺鈿の技法が発達していきます。文様も、それまでの花鳥文に変わり瑞祥文が多く作られ、全体的に文様と地紋が少なくなってきました。18～19世紀にかけては、昔の頃に帰り、朱漆が多くなります。また、箔絵と堆金による山水図の文様が中心になりますが、これは琉球王府の衰退による経済・文化の衰えが如実に表れる形となり、量産に便利な技法と、形式化され、しかも空白部が多い簡略な文様とで形成されています。その後、琉球王国の崩壊により、民間工房に引き継が



れ、戦争による中断やアメリカからの日本復帰という時代の移り変わりを乗り越え、琉球漆器は、県指定の無形文化財・工芸技術として、保持に努められています。



れ、戦争による中断やアメリカからの日本復帰という時代の移り変わりを乗り越え、琉球漆器は、県指定の無形文化財・工芸技術として、保持に努められています。

琉球という国は、どこか悠然としていて、おおらかな感じがします。これは、琉球歌謡の世界にも、色濃く表れています。その昔、中国から三線 さんしんが伝来し、王府により、沖縄の万葉ともいふべき『おもろさうし』が編纂され始め、八八八六型の琉歌が誕生したことなどが、琉球古典音楽の始まりです。“おもろ”とは、もともと五穀豊穡や無病息災を祈る祭祀儀礼で歌われていた神歌が始まりで、次第に洗練されていきました。また、琉球古典音楽にとって、三線の伝来は重要で、三線による演奏と歌を同格に扱っています。この流れとは別に、“御座楽”といわれる王朝の宮廷音楽があります。これは、江戸上がりや冊封使の歓待のために演奏された音楽で、19点の楽器により演奏されたといわれていますが、楽譜などの資料が少ないことから、幻の宮廷音楽ともいわれています。また、この御座楽は、限られた人たちによる室内楽であったために、一般大衆にはあまり伝わらなかったことも、幻となってしまった原因の一つでしょう。しかし、近年になり、研究会の尽力により復元が進められ、次第に演奏に形を整えつつあります。また、“路次楽”といわれる道中楽も中国から伝来し、俗に「ガク」もしく



は「ガクブラ」といわれるこの路次楽は、行列をしながら哨吶つなお=チャルメラを吹き鼓を鳴らして演奏するもので、現在県選択無形民俗文化財に指定されています。合わせて、琉球舞踊も独自の組踊などが発展します。

この歓待の芸能は、古典芸能として今日に伝承され、人々の日々の生活にも、深く浸透しています。

現在、琉球は沖縄として、新しい文化を形成しています。世界でも多彩な広がりを見せているオキナワンポップスなどが、そうです。1,000年に及ぶ歴史や伝統



を基盤に産み出されたオキナワンポップスは、琉球音

階の影響を巴漉く残し、今も、世界中の音楽の影響を受けて、新しい沖縄の民族音楽として、今後も発展して行くことでしょう。このことから分かるように、琉球=沖縄の文化は、他国の文化を吸収し、独自の文化と融合させることによって、発展してきました。これは、常に他国の支配を受け続けているということが、関係しているのではないのでしょうか。

冒頭でも述べたとおり、サミットの開催地と言うことで、沖縄は注目されています。日本でも屈指の観光地である沖縄は、夏にそのピークを迎えます。多くの自然を残した島々には緑が生い茂り、天然記念物に指定されている動植物も多く生息しています。見上げれば青い空に白い雲、周りはどこまでも碧い海が広がっており、色とりどりの魚が泳いでいます。こうして見ていると、沖縄は悠然とした自然に囲まれており、様々な色彩に溢れています。沖縄の人々のもつおおらかさや、沖縄の文化の華やかさは、こういった自然に根ざしているのかも知れません。ほんの一時でも、大和文化とは一味違った、もう一つの日本文化を堪能していただければと思います。

<文責・川上亜衣子>

20世紀後半の もう一つの 日本つ 沖縄

展示場所：金井書店八重洲店 & 八重洲古書館
開催期間：2000年6月1日(木)～6月29日(木)

沖縄関連書籍の即売コーナーもございます。
お立ち寄り下さい。

八重洲古書館
RETRO REVALUE RECYCLE